

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十七年
三月

初めての先生

今月は保育修了の月です。お子さん達は、國民學校へあがることを、大よるこびで楽しみにしてゐませう。お母さんの方も、學齡に達した我子の幸福を、心から祝つてゐられることとせう。まことに
お目出度い月であります。

ところで、その喜びの中で、是非更めて氣をつけて頂きたいことは、幼稚園の先生方に對する、お子さん達の感謝の心です。感謝といつても、幼児のことですから、まだ極くあつさりした心持しかないでせうし、それでいゝのです。がしかし、何せよ、お子さんが初めて先生といふ人への感謝です。之れは大切なことだと思ひます。これから後、いろ／＼の先生にお世話になられるお子さんとして、師に對する正しい心持ちといふものを、先づ幼稚園の修了に當つて、初經驗する機會が與へられるのです。勿論、それは、物でするお禮といつたことではありません。ほんとうの謝恩の心を、幼児ながらによく持たせることです。先生の前にあらはさせることも必要ですが、それ以上、心の内によく感じさせることです。それには、家庭の人の心持が先づさきでせう。それがおのづから子ども心に傳はるのです。

わが子の初めての先生は幼稚園の先生です。

幼稚園から

○お子さんの國民學校入學を、喜びお待ちします。もうお仕度くも出来ましかし。仕度くといつて、教科書を、さきまわりして教へて置いたりするのは、いらないこと、いふよりも、いけないこととせう。たゞ、新しい教科書や學用品は、お子さんといつしよに喜んであげることが大切です。

○物の方では、時節柄なるべく節約方針で、出来ることなら兄さん姉さんのものを使ふことにしたいものです。但、その場合、よく洗ふとか、寸法をなすとか、つくるひをするとか、丁寧に氣をつけなくてははいけません。「お古でいゝんだよ」とよこれたまゝなんかはいけません。況して、節約に名を借りて、點數をかせいでお母さまのおしやれに……之れは飛んだ失禮。

○入學日は、何はななくとも家庭のお祝ひをして下さい。常なら赤飯の日です。